

## 公益財団法人 日本骨髄バンク 第22回 業務執行会議議事録

日 時： 平成26年11月21日（金）17：30～18：05

場 所： 廣瀬第1ビル 2階会議室

出席理事： 齋藤 英彦（理事長）、伊藤 雅治（副理事長）、小寺 良尚（副理事長）  
加藤 俊一（理事）、佐々木 利和（理事）、鈴木 利治（理事）、橋本 明子（理事）

欠席理事： 谷口 修一（理事）

陪 席： 結城 康郎（監事）

厚生労働省移植医療対策推進室 室長補佐 山口 公平

厚生労働省移植医療対策推進室 造血幹細胞移植係 佐藤 幸

傍聴者： 1名

事務局： 木村 成雄（事務局長）、大久保 英彦（広報渉外部長）、坂田 薫代（移植調整部長）  
川原 順子（ドナコデネット部長）、小瀧 美加（新規事業部長）、松菌 正人（総務部長）  
橋下 秀昭（ドナコデネット部 参事）、小島 勝（広報渉外部 広報チームリーダー）  
五月女 忠雄（ドナコデネット部 指導研修チームリーダー）、松本 裕子（総務部 総務企画チームリーダー）  
折原 勝己（ドナコデネット部 主幹）、渡邊 善久（ドナコデネット部）  
芝野 聖子（総務部）

（以上順不同、敬称略）

### 1. 開会

開会にあたり、齋藤理事長より挨拶が行われた。

### 2. 業務執行会議の成立の可否

業務執行会議運営規則第6条により、本業務執行会議の成立が確認された。

### 3. 議長選出

業務執行会議運営規則第5条第1項により、業務執行会議の議長は理事長が当たることとされており、齋藤理事長が議長に選出された。

### 4. 議事録署名人の選出

議事録を作成するための議事録署名人は業務執行会議運営規則第8条により、議長及び出席した副理事長がこれに記名、押印しなければならないとされており、齋藤理事長、伊藤副理事長、小寺副理事長がこれに当たることとされた。

### 5. 議事録確認

第21回業務執行会議及び臨時理事会の議事録について確認し、全員異議なくこれを了承した。

〔議 事〕

### 6. 協議事項（敬称略）

## (1) 職員徽章の作成について

松菌総務部長より、資料に基づき、以下のような説明が行われた。

職員徽章の作成および運用に関する内規は、平成 26 年 10 月 24 日開催の臨時理事会にて承認されたが、対外的な場に関わらず、勤務時には原則として着用することが望ましい、との意見があり、内規上の文言の一部を見直し、職員徽章は原則として勤務時に着用することとしたい。

この内規の変更が承認され次第、早急に作成して運用を開始したい。

以上の内容で協議の結果、全員異議なく、原案通り承認された。

## 7. 報告事項（敬称略）

### (1) 平成 26 年度上半期移植件数・コーディネート件数

五月女ドナーコーディネート部チームリーダーより、標題の報告事項について資料に基づき以下の報告が行われた。

国内ドナーから国内患者への移植数は前年度上半期の 686 件に対し、本年度は 672 件と前年比 98.0%で推移している。特に 9 月は前年度 128 件に対し、本年度は 97 件と約 30 件減少していることが大きく結果に影響している。その他、国内ドナーから海外患者と海外ドナーから国内患者への移植数も前年度より減少している。

一方、国内患者登録数は前年比で 102%、件数で 23 件増、海外患者登録数は前年比 118.8%で推移している。

コーディネート件数は、5 段階の行程別に件数を表示した。コーディネート開始時点では、前年比 109.1%であるが、地区開始、確認検査、ドナー選定と行程を進めるにつれ前年比 100%近くまでに減少し、最終同意の時点で前年比 98.8%という結果になった。今年からコーディネート初期行程で、開始シート送付後の返信督促のタイミングを今までよりも早くした。そのためコーディネート初期では回転が良くなって件数が増えているが、コーディネート後半の行程では件数が減少していき、最終行程で前年に近い件数となっている。

末梢血幹細胞移植数は 3 年分の件数を比較している。本年度 4 月～10 月で 38 件となり、前年 1 年間と比較して 2 倍以上の増加となった。末梢血幹細胞採取・移植認定施設数も増加し、84 施設となり移植数の増加に繋がっている。

#### (主な意見)

<小寺> 国内患者登録件数は支援機関のポータルサイトにも反映されているのか。

<小瀧> 支援機関のポータルサイトから当法人のホームページにリンクされている。

<小寺> 上半期で、支援機関のポータルサイトからの臍帯血の申し込み件数は何件か。臍帯血実施件数は、非血縁造血幹細胞移植の潜在需要の参考になるので、その数値も報告していただきたい。

<五月女> 4 月～10 月の臍帯血の実施件数は 719 件であった。

### (2) 平成 26 年度中間決算

木村事務局長より、標題の報告事項について平成26年度正味財産増減計算書内訳表に基づき以下の報告が行われた。

当法人の公益目的事業は「普及啓発事業」と「連絡調整等事業」が認められており、この2つに仕訳できないものを「共通」としている。管理部門の費用は公益目的事業会計とならないため、「法人会計」欄に記載している。また、平成26年度中間決算合計と平成25年度中間決算合計を対比した記載としている。

まず一般正味財産増減の部であるが、経常収益計が5億7,400万円余りで、前年より1,100万円余りの減少となった。主な要因としては医療保険財源収益が移植件数の減少に伴い約600万円減少したことが挙げられる。経常費用は、普及啓発事業が1億1,200万円、連絡調整等事業が6億2,400万円余り、管理費が1,700万円で合計して7億5,400万円余りであった。前年より2,200万円弱増加した。増加の主な要因は事業費の給料手当が1億9,400万円となり、前年度と比較して1,600万円増加した。これは定期昇給と昨年までの2年間、賞与10%カットが解除されたことによる。経常収益計から経常費用計を差し引いた当期経常増減額は、マイナス1億8,000万円余りで、前年度より3,300万円マイナス額が増加した。この時点で国庫補助金が含まれていないが、本年度に4億6,000万円が入る予定のためそれを勘案すると当期はマイナスにならない見込みである。

### (3) 骨髄・末梢血幹細胞提供あっせん事業者連絡会議報告

大久保広報渉外部長より、標題の報告事項について資料に基づき以下の報告が行われた。第1回目の会合が平成26年10月23日に日本赤十字社で開催された。

出席者は当法人以外に支援機関の日本赤十字社と陪席者の厚生労働省であった。

議題は、今後の骨髄バンクドナー登録推進に関し(1)ドナー登録に関する日赤への依頼事項(2)献血ルーム内での骨髄バンクPR資材の提示(3)骨髄バンクドナーの登録推進、についてであった。

協議内容としては、

献血バスでのドナー登録用の採血備品の完備は難しいが、献血併行登録会では対応を進めていること、

献血カードへの「ドナー登録済」の表示についてさらに検討が必要なこと、

骨髄バンクのポスターに献血ルーム等でのドナー登録の受付の表示が承認されたこと、

献血ルームでの広報資材の設置等について協議しながら進めていくこと、

ドナー登録が進んでいない地域での登録推進対策を実施していくこと、

支援機関からは登録の目標値は県別に数値設定を行い、下期は前年度と同数の維持確保に努めること、

献血ルームへの選任説明員の配置を今後の検討課題とすること、

骨髄バンクの協力依頼文をもとに血液センターに通知文を発出すること、であった。

支援機関からは、ドナー登録保留者の減少につなげるために献血ルーム等での住所変更などの登録情報の変更方法の周知等を図っていきたいとされた。

当法人からは、骨髄バンクニュースのメール配信を来年に12月開始する予定であることを報告した。

その他には、コーディネート期間の短縮、千葉県での普及啓発を目的とした展示会の実施、来年3月下旬予定の第29回日本医学会総会での献血併行型ドナー登録会の開催の予定などの報告を行った。

(主な意見)

- <加藤> 説明員の配置に関し、当会議での各県の血液センターでの登録状況統計値の報告を要望してきたが、まだ、一度も報告されたことがない。骨髓バンクや厚労省から地方自治体に対し、各地自体が行うべきことが法律で定められているので積極的に働きかけていただきたい。具体的な対策を取れば成果が上がることは、神奈川県や埼玉県の事例で証明されているので次年度に向けて働きかけをお願いしたい。
- <齋藤> 今のご指摘は非常に重要である。各地方自治体に積極的に働きかけをしていくしかない。
- <久保> 連絡会がない自治体にはドナー登録担当者が出向いて行って、連絡会の設置依頼と、神奈川県等の事例を取り上げて説明員配置などの予算を組んでもらえないかと順次回っている状況である。
- <小寺> 全都道府県の中で連絡会がないところはどのくらいあるのか。
- <久保> 全都道府県の中で1/4程は、活動がほとんどない状況である。

#### (4) コーディネーター養成研修会（山形県）の実施について

五月女ドナーコーディネート部リーダーより、標題の報告事項について資料に基づき以下の報告が行われた。

来年度は大々的に全国レベルでコーディネーター養成研修会を実施したいと考えているが、地域の緊急な必要性から山形県では先行して実施することとなった。募集に関しては、ホームページでの周知や新聞の募集広告、県のホームページでの告知依頼等を進めている。研修期間は来年1月下旬～5月、活動開始時期は来年6月頃からを予定している。研修参加者になるべく脱落することなくコーディネーターになっていただきたいことから、前回よりも長めの期間を設定した。

#### (5) デング熱の感染確認に関する対応について

折原ドナーコーディネート部主幹より、標題の報告事項について資料に基づき以下の報告が行われた。

平成26年9月5日付厚生労働省からの通知を受け、9月8日からドナーに対してデング熱に関する注意喚起並びに問診強化の対応を実施してきた。7名から代々木公園等厚生労働省からの指定地域周辺へ立ち寄ったとの報告があり移植担当医に確認し、全件、進行している。10月31日以降、デング熱国内感染事例が確認されていないことから11月13日付の厚生労働省の通知を受けて、11月14日以降は統一的な対応は不要として本対応は終了した。

#### (6) ドナー安全委員会報告

橋下ドナーコーディネート部参事より、標題の報告事項について資料に基づき以下の報告が行われた。

平成26年10月25日に委員会が開催された。

平成27年度非血縁者間骨髓および末梢血幹細胞採取・移植施設認定更新調査について、移植施設認定基準は学会で検討されているが、今回は例年通り採取・移植とも当法人が認定調査を行うこととなった。

(主な意見)

＜小寺＞ 中止事例の中でどの事例がPBの事例なのか。BMとPBが具体的にどの事例で起こっているのか分かるようにした方が良い。

**(7) 調整医師の新規申請・承認の報告**

川原ドナーコーディネーター部長より、標題の報告事項について資料に基づき以下の報告が行われた。

平成26年9月1日～平成26年10月31日の間に新規申請・承認された調整医師は各地区から4名で、合計承認人数は1,121名となった。

**(8) 募金報告**

大久保広報渉外部長より、標題の報告事項について資料に基づき以下の報告が行われた。

10月度は、金額で693万円余り、件数は439件であった。前年比450万円程減少しているが、前年は同時期に経団連募金で大口の寄付があったためである。累計では8,349万円で、前年比1,835万円の減少となり82%であった。11月27日に日本自動車工業会から1,200万円の寄付が予定されていて、引き続き経団連に働きかけを行っている。

以上